

とびひ（伝染性膿痂疹）

とびひは、医学用語では伝染性膿痂疹（でんせんせいのうかしん）といいます。6歳以下のこどもに多い皮膚の感染症で、一年中存在するのですが、特に夏になるとたいへん多くみられます。

< どうして「とびひ」になるの？ >

アトピーや虫刺され、転んで出来たすり傷、水ぼうそうの発疹を掻き壊し、そこに黄色ブドウ球菌、A群溶連菌などの細菌が感染して発症します。これらの細菌は、健康な皮膚には感染しませんが、アトピーや傷などで抵抗力が弱くなっていると感染しやすくなってしまい、水ぶくれやかさぶたを形成します。患部をひっかいたときに、水ぶくれが破れ、指先や爪に細菌がつき、その手で別の場所をひっかいたり、他の人に触れたりして、どんどん広がっていきます。まるで、火事が「飛び火」していくように、最初の部位から離れたところに病変が広がったり、他のお子さん達にも広がっていくことから、「とびひ」と言われるようになりました。

< どうやってなおすの？ >

病気の原因となった細菌に対する治療が基本となります。抗生物質を内服したり、抗生物質の軟膏を病変部位に塗り、ガーゼで保護します。痒みがとても強い場合には、かくことによつて他の部位に広がることを防ぐために、痒み止めを内服することもあります。数日後には、ジクジクとただれていたところが乾いてかさぶたとなり、治っていきます。広がってからなおすには手間がかかりますし、他のお子さん達にも広まってしまいますので、あやしいと思ったら、早めに小児科か皮膚科にかかりましょう。

< 生活で気をつけることは？ >

日常生活はごく普通です。しかし、他のお子さん達にうつさぬために、子ども同士は触れ合わないよう気をつけなくてはなりません。患部が広範囲の場合には、保育園や幼稚園、学校はお休みしたほうがいいでしょう。プールは、完全に治るまで禁止です。お風呂は入ってもかまいませんが、患部が乾燥するまでは湯ぶねには浸からず、シャワーやかけ湯にとどめておいたほうがいいでしょう。

< 予防するためには？ >

ふだんから手洗いや入浴で皮膚の清潔をこころがけることです。そして、アトピー、湿疹、虫刺されは、しっかり治療しておくこと。爪を短くして、ひっかいて皮膚に傷をつけないようにしておきましょう。また、鼻の中には「とびひ」の原因になる黄色ブドウ球菌がたくさんいますので、鼻をいじることもやめましょう。